



訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ
通信
No. 7

(平成 28 年 4 月)

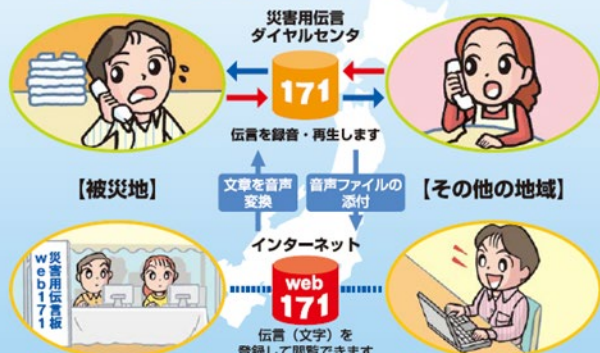
NTT 西日本

災害用伝言サービス「171」&「web171」

NTT西日本が提供する災害用伝言サービスには、電話を利用する声の伝言板「災害用伝言ダイヤル171（電話サービス）」とインターネットを活用する「災害用伝言板web171」があります。

大規模災害発生

電話による安否確認の連絡が取りにくいときの、被災地域内やその他の地域の方々との伝言板です。



ご利用方法

被災地域内と他の地域を結ぶ声の伝言板、 「災害用伝言ダイヤル171」		家族等の安全がインターネット上で確認できる、 「災害用伝言板web171」	
利用ガイダンスにしたがってご利用ください。		画面の指示によりご利用ください。	
伝言の録音方法	伝言の再生方法	登録方法	閲覧方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 「171」にダイヤルする ※IPアドレスが必要です 2 録音する場合は 1 録音ボタンを押す 録音終了 ※IPアドレスが必要です 3 録音時間満了後、音声データが自動的に送信され、録音完了となります。 ※録音時間満了後、録音データが送信されません。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「171」にダイヤルする ※IPアドレスが必要です 2 再生する場合は 2 録音ボタンを押す 再生終了 ※IPアドレスが必要です 3 録音時間満了後、音声データが自動的に送信され、録音完了となります。 ※録音時間満了後、録音データが送信されません。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 https://www.web171.jp にアクセス 2 録音ボタンを押す 録音時間満了後、音声データが自動的に送信され、録音完了となります。 ※録音時間満了後、録音データが送信されません。 3 録音時間満了後、音声データが自動的に送信され、録音完了となります。 ※録音時間満了後、録音データが送信されません。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 https://www.web171.jp にアクセス 2 録音ボタンを押す 録音時間満了後、音声データが自動的に送信され、録音完了となります。 ※録音時間満了後、録音データが送信されません。 3 録音時間満了後、音声データが自動的に送信され、録音完了となります。 ※録音時間満了後、録音データが送信されません。

(院長 笠松 哲司)

電話での運用だけでなくインターネットを介して伝言を録音したり、伝言を確認することができるようになっています。インターネットの時代ですので、有効に使えるといいですね。NTT西日本からのお知らせを添付しますので、ご活用ください。

災害時想定のレストラン

みなさん、こんにちは。東日本大震災から五年が経過しました。仮設住宅での生活を続けておられる方もまだ多数おり、復旧・復興も毎日、一生懸命すすめられています。我々としては、東日本大震災の教訓をいかし、将来おこるとされる南海地震に対して準備をしていかなければなりません。

さて、災害時の安否確認や情報共有の方法は、普段から話しあっておかなければ、いざというときにはあわててしまいます。災害時の電話は通じにくいと言われており、メールが通信手段として有用とされています。

今回、東日本大震災から五年となる三月十一日、在宅患者さんにご登録いただいているメールアドレスに、クリニックからテストメールを送信してみました。びっくりされた方も多かったかもしれませんが、多くの方から無事であるとの返信メールをいただきました。メールが届かなかつたり、返信がなかった患者さん（ご家族）には、訪問時に確認をさせていただきました。修正を加えながら、今後も送受信テストをしていきたいと思っています。

本年三月から、「web171」の運用が始まっています。今までは、災害用伝言サービス「171」という電話での運用だけでありましたが、それに加えてインターネットを介して伝言を録音したり、伝言を確認することができるようになっています。インターネットの時代ですので、有効に使えるといいですね。NTT西日本からのお知らせを添付しますので、ご活用ください。

診療報酬改定に伴う一部負担額変更のお知らせ

平成28年4月より診療報酬改定に伴い、お支払いいただく金額が異なる場合がありますので、ご了承ください。ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。
なお、ご不明な点がございましたら、当院までお問い合わせください。





訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック



かさまつ
通信
No. 7

(平成 28 年 4 月)

川井峠の枝垂れ桜



つい先日満開になったと思った桜も、暖かい春の雨に濡れて散り始めましたが、代わって新芽の鮮やかな美しい若葉色が眩しい季節になってきました。桜色に霞んでいた空気が初夏に向けて鮮明な色使いの景色へと変わっていくこの季節が、いちばん大好きな季節でもあります。

この四月で、医学部を卒業してから十八年目に入りました。自分が研修医になった頃、十八年目の大先輩なんて、とつともなく偉大な先生に思えたのですが、いざ自分がその年になってきて当時の大先輩のような仕事ができているのか？と自問自答すると、まだまだ未熟な我が身にしょんぼりさえしてしまいます…。

しばらく新規の患者様の受け入れがなかった小児科部門ですが、三月から在宅移行へ準備を始めた方のご紹介が続き、四月に三名の患者様をお引き受けします。小児在宅医療という医療活動が実際にどのような機能しているのか、まだまだ病院の先生方にも知られていない部分が多いですが、今後徳島の小児医療を担っていかれる若い先生方が在宅医療に関心を持ち連携を取っていただけることで、少しずつ認知度が上がってきたようにも思います。また、小児の訪問看護に関心を持って新しく取り組んで下さる事業所も少しずつ増えてきました。長期の療養生活が予想される小児在宅医療では、連携して下さる医療スタッフも多く必要ですので、小児の在宅医療に手挙げして下さる事業所が増えることは大変ありがたいことです。

最近、マスコミなどでも、高度な医療的ケアを必要とする重症児が手薄な支援の中で懸命に生きている様子が頻回に取り上げられています。十八年前、私は病院内で仕事をするのが当たり前だと思っていました。が、在宅医療に関わるようになって、患者様とご家族に寄り添って一緒に成長を見守っていけることが楽しく、やりがいを感じます。

「小児在宅医療が広まるためには、まず成功例を体験し皆に知ってもらうことがいちばんの近道。」先日の研修会でも聞いてきた言葉です。細々ですが、今年度もがんばっていきます。

(小児科 笠松 由華)